

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007

News vol.9



平成19年11月2日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



三菱自動車工業

“走行時CO₂ゼロ”の夢を実現へ



電気自動車の新しいカタチを提案した「i MiEV SPORT」



ステージでは手話通訳も行っている

2007年9月中間連結決算では5年半ぶりに営業・経常ベースで黒字に転換した三菱自動車。中央ホール西側にある展示ブースでも「復活の兆し」を予感させるような躍動感が伝わってくる。企業コミュニケーションワードの“クルマづくりの原点へ。”をテーマに、3つの柱である「走る喜び」「確かな安心」、そして「環境への貢献」をメインステージ上の3台のコンセプトカーでわかりやすく表現している。

ステージ中央に展示しているスポーティな「i MiEV SPORT」は、前輪左右のインホイールモーターと後輪用シングルモーターによる4WDを核とする独自の車両運動統合制御システムを採用することで電気自動車の可能性を追求。環境へのやさしさに加え、「走る喜び」にもこだわったというエコスマールカーの新しいカタチを提案した“欲張り”のコンセプトモデルだ。

三菱では、昨年10月に地球温暖化のもとになるCO₂削減の切り札として新世代の電気自動車「i MiEV」の先行研究車両を発表、東京電力など複数の電力会社と共同研究を進めてきた。

今回は、バッテリーやモーターを改良し、2007年度後半に一般道路で実施予定の実証走行試験（フリートモニター）に使用する「i MiEV」の新モデルもブース2階に展示。地階からバッテリーの位置などを覗くことができる。プレスデーで益子修社長は「『i MiEV』の開発は順調に進んでおり、市場投入も当初計画の2010年から前倒しが可能」と述べた。

三菱のブースは、“走行時CO₂ゼロ”をキャッチフレーズにエコカーのなかでとりわけ電気自動車の開発に熱心に取り組む姿勢を感じ取ることができる。



「Concept-ZT」は三菱の「技術の集大成」

ワイドスクリーンのあるメインステージには中央の電気自動車の新しいカタチを提案した「i-MiEV SPORT」をはさんで、左右に、ワールドプレミア（世界初出品）の「Concept-ZT」とジャパンプレミア（日本初出品）の「Concept-cX」の3台のコンセプトカーを展示。女性コンパニオンが1台ずつ車両紹介をするが、映像を切り替えるときには、スクリーンとステージはシャワーカーテンにおおわれる。一瞬だが、ヒートアップした会場内の熱気から癒される。また、ステージの横では、手話通訳者が耳の不自由な人をサポートするなど、来場者にやさしいステージだ。

コンセプトモデルのうち、「Concept-ZT」は新開発2.2リッターのクリーンディーゼルエンジンと機械式自動変速機「Twin Clutch SST (Sport Shift Transmission)」を組み合わせて採用。また、プリクラッシュセーフティなどの先進のアクティブセーフティ技術、ポップアップフードなどの衝突安全技術を取り入れるなど、「走る喜び」「確かな安心」「環境への貢献」の3要素を「高いレベルで実現した三菱の技術の集大成」（相川哲郎常務）という。



新時代のコンパクト SUV「Concept-cX」

また、「Concept-cX」は1.8リッターのクリーンディーゼルエンジンと「Twin Clutch SST」を組み合わせ、高い走行性能と環境性能を実現。さらに、運転のし易いドライビングポジションや市販車の「アウトランダー」にも使われている上下開閉式テールゲートを採用することで実用性を高めるなど、タウンカーとしての使い勝手に優れた新時代のコンパクトSUV。9月に開催されたフランクフルトモーターショーにも出品され、話題を呼んだ。



操縦性と安定性に優れた「S-AWC」。ブース内では体感シアターも併設



「ランサーエボリューションX」

このほか、おなじみの「パジェロ」のラリーカーの展示コーナーのほか、技術展示では新型「ランサーエボリューションX (テン)」などに搭載している操縦性と安定性に優れた「S-AWC」のシステム展示も興味深い。ブース内では「S-AWC」体感シアターも併設、アルプス山脈をイメージ走行できるのも魅力的だ。

プレスブリーフィングから

新世代の電気自動車 「i-MiEV」を一刻も早く お届けしたい

三菱自動車工業
益子 修 社長

クルマ社会は「量」から「質」の時代へ変化しつつあり、三菱のクルマづくりも「環境への貢献」と、お客様に「夢」を提供するために、進化し続けています。この「環境への貢献」という面では、昨年10月、新世代電気自動車「i-MiEV」を発表し、さらに、バッテリーやモーターを改良した新モデルで、近く一般道路における実証走行試験を行う予定です。市場投入も当初計画の2010年から前倒しが可能な状況です。三菱が未来のために電気自動車を選んだのは地球温暖化のもとになるCO₂を走行中はまったく排出しないからです。環境にやさしい「走り」の楽しさなど、「走行時CO₂ゼロ」の夢を一刻も早く皆様にお届けすべく邁進いたします。





エントランスにはおなじみの「パジェロ」のラリーカーを展示

メルセデス・ベンツ

持続可能な「未来へのロードマップ」を描画



Mercedes-Benz



最上級サルーンの未来形「F 700」



▲日本のディーゼル車市場“復活”のカギ握る「E 320 CDI ステーションワゴン」



◀モジュールテクノロジーを駆使した「メルセデス・ベンツ C 300 ステーションワゴン BLUETEC HYBRID」

先のフランクフルトモーターショーで長期戦略テーマとして公表した「未来へのロードマップ」を東京モーターショーでも意欲的に描いて見せている。マック達成のために注力するのが、高級車にコンパクトカーなみの燃費を実現する最先端技術の「DIESOTTO (ディゾット)」、独自のモジュール技術「BLUETEC HYBRID」、量産化志向の「F-Cell」(燃料電池)の3つの革新的パワートレインの開発だ。

ディゾットは先進ディーゼルエンジンとガソリンエンジンをいいとこ取りした技術。日本初公開の「F700」はディゾットにハイブリッドを組み合わせたリサーチカーで、リッター当たり18.9キロの燃

費を達成する。独自のディーゼル排出ガス抑制システム「BLUETEC」と小型ハイブリッドを結合した「C 300 ステーションワゴン BLUETEC HYBRID」は、現在まで登場したすべてのガソリン・ハイブリッド車の燃費を上回るという。

日本でディーゼル乗用車として初めて新長期排出ガス規制をクリアした「E 320 CDIステーションワゴン」は抜群の存在感を示す。「B200」は市販車出品ではあるが、Bクラスの燃料電池モデルはベンツ初のF-Cell量産化モデルとなる。

スマート

都市型コミュータの第2世代を出品



第2世代でジャパンプレミア(発売と同時に)の「スマート フォーツ」のクーペとカブリオを出品。全長3メートル未満のマイクロコンパクトカーのカテゴリーを守りつつ、ホイールベースを伸ばして快適性を一段と高めた。



全世界の衝突安全基準もクリアの新型「スマート フォーツ カブリオ」

ミニ

さらに磨きをかけるドライビング・エクサイトメント



日本に来春投入される「MINI Clubman」。スポーティ・クーペとハッチバックの良さを融合した、同クラスでは類のないシューティング・ブレークを採用。右サイドに後ヒンジのクラブドア、後部の観音開きという使い勝手の良さ。



シューティング・ブレークを採用した5人乗りの「MINI Clubman」

BMW

“駆けぬける歓び”を約束するエフィシエントダイナミクス



将来の量産化シーズを数多く秘めた「BMW Concept 1 シリーズ tii」▶



▲4ドア車のトップアスリートとなる「BMW M3 セダン」



▲世界で唯一のスポーツ・アクティビティ・クーペがコンセプトの「BMW Concept X6 ActiveHybrid」

BMWはこのほど2020年に向けた長期成長目標のコアとなるBMWエフィシエントダイナミクスを設定。クルマの出力向上と燃料消費、CO₂排出量を同時に削減させる様ざまなニューテクノロジーの総称を意味する。最終目標のゼロ・エミッションを目指すのが日本初公開の「Hydrogen 7」だ。それに至る中間ステップと位置づけるのがアジア初公開となるフルハイブリッドカー「BMW Concept X6 ActiveHybrid」である。

サーキットで開発された「BMW M3 セダン」はワールドプレミ

ア。4ドア車の高性能スポーツカーとしてのポジションを与える。もう一つの世界初出品が「BMW Concept 1 シリーズ tii」。新型1シリーズ・クーペをベースとするデザインコンセプトカーで、コンパクト2ドア・モデル。

アジア初登場の「BMW 6 シリーズ」は、グラン・トゥーリズム最高峰の伝統を体現するスポーツ・クーペ。同じくアジアプレミアとなる「BMW 135i クーペM-Sport」は独特のプロポーションを持つ3ボックス構造がととも印象的だ。

- 講演者： 内海 善雄（トヨタ自動車顧問／前国連ITU事務総局長／早大客員教授）
安井 至（国連大学副学長／東大客員教授）
林 直義（日本自動車研究所理事）
- モデレーター・パネリスト：
小尾 敏夫（早大大学院教授）
- パネリスト：ソン・ユジン（中国＝北京大学教授）
ハルソ・スホノ（インドネシア＝バンドン工科大学教授）
フランシスコ・マグノ（フィリピン＝ラサール大学教授）
ポング・スバリ（タイ＝タマサート大学学部長）
- 主催：早稲田大学、日本自動車工業会



シンポジウムでは活発な議論がたたかわされた

2003年に続き、2回目となる「アジア環境専門家シンポジウム」にはアジア各国から学識経験者が参加し、「自動車・環境・アジア」をキーワードにして開催された。

まず早稲田大学との共催者あいさつを兼ねて、日本自動車工業会の岩武俊広 参与・国際統括部長が自動車に関するCO₂削減を巡る日・米・欧の最近の動向を紹介。次いで林、安井、内海氏ら各氏がそれぞれの立場から基調講演を行った。

この中で、林氏は日本の自動車の環境規制の推移を説明すると共に、アジア地域でのNO_x(窒素酸化物)やPM(粒子状物質)などの大気汚染の進行に対処して、クルマの走行形態の調査やシミュレーション

活動が重要と説いた。また安井氏は「環境型社会に新しい価値観を持てるよう国民レベルでのマインドセットを」、内海氏は「自由競争原理から脱してアジアの互惠精神が世界をリードしなければ」と、温室効果ガスの効果的な増加抑制は図れないとそれぞれ警告を発した。

このあとの討論ではテーマを「IT」まで広げ、各国のパネリストが環境課題と対応政策の現状などを説明し、一様に情報管理技術の整備向上と民間企業や行政CIO(最高情報統括責任者)の養成の必要性を強調。最後に司会役の小尾氏が「自動車・環境・ITの一体連携が必要で、ITS(高度道路交通システム)研究をアジア諸国と一緒にやっていきたい」と提言して閉会した。

SPECIAL

ライフスタイルパークでお楽しみイベント開始

▼ライフスタイルパーク登場



10月中は車体メーカーのブースが設置されていた幕張メッセ西休憩ゾーンが、11月1日からガラリと装いを変え、さまざまなお楽しみイベントが行われる「ライフスタイルパーク」となった。ダンスと縄跳びのコラボレーションパフォーマンスと交通安全クイズを行う「ダブルタッチ」、パトカーや白バイが展示され、記念撮影も可能な「千葉県警コーナー」、驚異のライディングテクニックを楽しめる「トライアルデモンストレーション」など、見どころ満載。クルマの観覧の合間に一息入れるのに格好のスペースだ。



トライアルデモなど楽しい企画満載

EVENT

今日のイベント(予定)

11月2日
(金)

- シンポジウム(国際会議場2階 国際会議室)
13:30~16:30-「カーたびの明日を拓く」

<ライフスタイルパーク(西休憩ゾーン)>

- ダブルタッチ
10:45~11:15 / 15:45~16:15
- bayfm78 東京モーターショーレポート
11:30~12:00 / 14:00~14:30
- WHO「運動器の10年」キャンペーントークショー
12:00~13:00
- トライアルデモンストレーション
13:15~13:45 / 15:00~15:30

- 第5回 全日本 学生フォーミュラ大会参加車両・デモ走行
11:00~12:00 / 13:30~14:30 / 15:30~16:30 (中央休憩ゾーン)
- スロットカー・サーキット
10:00~18:00 (北ホール2階・キッズパーク)
- ミニシアター〜クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ〜
10:40~12:25 / 13:05~17:35 (国際会議場3階 302号室)
- 4×4 アドベンチャー同乗試乗会
11:00 ~ 16:00 (幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース)
- セーフティドライブ体験試乗会
11:00 ~ 16:00 (幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース)
- クリーンエネルギー車同乗試乗会
11:00 ~ 16:00 (幕張海浜公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- 商用車同乗試乗会
11:00 ~ 16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所：幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



高速・高画質・高品質 券券65枚フルカラー出力

印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。
※A4ヨコ

ON DEMAND PUBLISHER C65

The essentials of imaging

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL.03-5205-7820
URL. http://konicaminolta.jp/pr/odp

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

11月1日の入場者数 56,000人

入場者数累計 489,700人

東京モーターショーニュースVol.9 2007年11月2日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA